

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を玄関に掲示し周知・理念の共有を図っています。また、不定期ですが法人内の理念を含めた研修会に参加して一層の共有を図っております。	法人理念とともに、施設目標の4項目、「①安全性の担保と健全運営」、「②ケアの質の向上」、「③内部機構の強化」、「④地域との連携」を掲げ、利用前に家族等に説明している。職員は上期、下期に「目標管理シート」を作成し、利用者一人ひとりに寄り添い「共に歩む」の法人理念に基づき日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が紙芝居のボランティアに月1回きてくださったり、隣組の方が笠おどりのボランティアに最低でも月に1回来てくださります。又、年1回開催される秋祭りには地区の方に回覧版でお知らせをさせていただき招待しております。	自治会に協力金を納め、区主催の防災訓練にも職員2名が参加している。散歩に出かけ顔見知りの近所の方から大根、キャベツ、かぼちゃ等季節の野菜を頂き、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの場を活用して認知症への理解を求めるとともに、どのような支援をさせていただいているかをお伝えし少しでも地域の方に御理解をして頂けるよう活動しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で意見交換を行い、頂いた貴重な意見を施設運営に生かしております。	定期的に会議を開いている。家族、区長、民生委員、老人会代表、地域包括支援センター職員等が出席し、双方向の意見交換がされている。区の文化祭への作品出品依頼や町商店街のイベント、地区内保育園・小学校の行事への参加等の情報を頂き、ホームと住民との架け橋になっていただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報共有の場を活用し随時、入居状況などを報告させていただいております。又、その場を活用して待機者の情報交換なども実施しております。	要介護認定申請代行時に利用者の状況やケアサービスの取り組みを伝える等の情報提供が行なわれ協働関係が築かれている。また、毎月開かれるケアマネージャー連絡会議に出席し地域の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面などを考慮し玄関には施錠をしているが、ご利用者様からの希望があればスタッフが付き添い開錠している。玄関以外は基本的に開錠されておりご利用者様が自由に行動して頂けるようにしております。介護職としてのプライドを持って身体拘束は「0」のケアを行っております	身体拘束をしないケアについて職員は正しく理解しており、利用前に家族等にも説明がされている。ホーム独自に4つの委員会があり、医療安全委員会で取り上げた資料の共有化を図るため、回覧し確認している。	

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待についての勉強会を実施し身体拘束や虐待への理解を深めている。ご利用者様同士や職員との相性や関係性にも配慮し虐待に繋がらないよう細心の注意を払っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ必要とはされていないが、必要になった場合に備え理解を深めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時には丁寧な説明を心掛けており、ご家族様が質問などをしやすい雰囲気作りを大切にしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の意見をスタッフで共有できるホワイトボードの設置をしております。又、ご家族様とは面会時や必要時の電話にてコミュニケーションを図っておりなんでも言い合える関係を構築しております。頂いた貴重な意見は職員間で共有し運営に生かしております。	利用者の6割以上の方は自分の意見を伝えることができる。思いや意見を伝えられない方には時間をかけて聴くようにしている。家族会を年に3回ほど開催し、庭の手入れの後の焼肉会や秋祭り等に参加していただき、管理者、職員と交流する中で意見や要望を聞き取っている。また、遠方の家族には利用者の最近の状況を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している職員会議の場で意見交換をしている。スタッフの意見や提案は施設全体で協議し運営に生かしている。	スタッフ会議では管理者と職員の双方向の話が活発に取り交わされ、意見や要望は運営に反映されている。また、職員は「目標カード」を上期・下期で作成し、法人役員との面接を行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境整備のために職員とのコミュニケーションを密にとり、職員からの意見や提案を元に業務改善を行い職場環境の整備を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員にあった法人内外の研修への受講を進め、研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那介護事業所連携事業を活用し、職員同士が同業者と交流する機会を設けている。他の施設の職員と意見交換をすることで質の向上に繋がるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様に関する情報収集を行うほか、日常の地道なケアを誠実に積み重ねながら信頼関係を築く努力をしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の情報を収集する段階で充分にお話をお聞きするようにはしています。又、入所されてからの数日は本人様のご様子をご家族様に電話でお伝えして、安心して頂けるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されたご利用者様に一番必要な支援は何かを見極められるよう、ご利用者様・ご家族様・職員と密な連携をとっている。必要があれば介護用品のレンタルや購入・医師の紹介等の相談にも応じています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で職員とご利用者様が共存している姿が多くみられております。新たらしく入職されたスタッフなどにはご利用者様が教えてくださる姿も見られます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会などに参加していただき、協働で作業などをしていただいております。又、レクで作成した絵手紙をご家族様に送らせていただきご家族様と本人様の絆を深めて頂く様な取り組みも致しました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人様・親戚様・友人・知人等、多くの方が面会に来て下さります。馴染みの方が来所しやすい環境作りや居心地の良い環境作りを行い、来所時に心地よい気持ちになって頂けるよう努めております。	お孫さんや利用前に住んでいた近所の方の訪問を受ける利用者もいる。馴染の美容院やお墓参りに家族と出かけたり、利用前から自ら手掛けていた自宅の畑を家族とともに作っている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合うご利用者様同士が関わりを持てる様に両棟の行き来は自由にさせていただいております。又、ご利用者様の相性や関係性を考慮した席をご用意させていただいております。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者様やご家族様にも行事の招待状をお送りしたりしてご参加を促したり、電話での相談に乗らせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の言動の中から本人様の希望や願いを把握できる様に職員会議の場などを使って情報交換・共有しています。又、願いをかなえるボードも使用しご利用者様の願いを形にする取り組みも実施しております。	利用者の生活歴や家族等からの聞き取り、利用後の日々の心身の状態を把握し、思いや意向を言葉や表情から推し量っている。言語によるコミュニケーションで判断するよりも表情から汲み取るほうが良い場合もあり、各利用者毎にきめ細かく対応している。利用者が夜1人でホールにいるときにお茶を飲みながら話を聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様・ご家族様から聞き取った生活歴や馴染みの暮らし方を個人ファイルに綴り、職員間で把握・共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をつけ、それを元にカンファレンスを行い、ご利用者様の状態把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランの原案をつくりご家族様に内容を説明させていただき、ご意見があればそれを盛り込んでプランを完成させていただいております。	ケアマネージャーが利用者本人や家族から心身の状態などを聞きアセスメントしている。利用者一人ひとりの担当職員からも情報や意見を聞き、また家族よりの意見・要望なども取り入れ介護計画の定期的な見直しを行なっている。利用者に状態変化が見られたときには随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議の前にプランを職員に周知し、職員会議にて情報共有・検討を行いプランの見直しを行っています。又、普段の介護記録も参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様のニーズに合ったサービスが提供できるように最大限の配慮をしております。ご本人様・ご家族様の希望にて近隣施設に習字や絵手紙を行いに行かれてはいるご利用者様の対応もさせて頂いております。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんが定期的に訪れて下さり紙芝居や楽器演奏などをして下さります。 ご利用者様にとっても楽しみの一つになっております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院はあるがそれにとらわれず、ご本人様・ご家族様が希望される医師に受診又は往診をしていただいております。	ホームには月2回の協力医による往診がある。同じ法人の1名の看護師による24時間対応の支援もあり、利用者に状態変化が見られた場合の連携も取れ、きめ細かな対応が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回定期的に担当看護師が来所しご利用者様の健康管理をしてくれる他、施設に準看護師も所属しており、専門性を生かした観察や気づきを担当看護師に伝えることができるため、ご利用者様・職員の大きな安心になっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は時々訪問して本人様の状態を確認させていただきながら、病院のソーシャルワーカーと密に連絡をとり、治療の経過や退院の見通しについて情報交換を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の変化に合わせて、必要時は医師・看護師・担当ナース・ご本人様・ご家族様で話し合っって今後の方針を決めております。 ご家族様・ご本人様が希望されれば看取りまで施設をご利用していただけます。	開設4年目を迎えようとしているホームであるが、看取りは3度ほどある。利用開始時には家族に重度化した場合等について十分説明がされており、看取りなどの現実に遭遇した場合にも医師や看護師との連携がとれている。状態の変化に合わせて意志を確認しながら見極めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的に担当ナースに連絡し、その指示通りに動くため特別な訓練は実施していませんが、緊急時のマニュアルや緊急連絡網を整備し伝達訓練を実施しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月と11月には火災を想定した総合防災訓練を実施し、8月には地震を想定した訓練も実施しております。その他にも情報伝達訓練なども実施しております。運営推進会議にて地区との連携については随時、情報交換しております。	スプリンクラー、火災報知機が設置され、年2回の防災訓練が行われている。今年度は火災を想定した避難誘導訓練と消火器の使い方の訓練を実施した。備蓄品倉庫は収納スペースも広く、整理整頓がされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念に掲げる「心を温める一言」と「喜びや安らぎを運べる笑顔」を大切にいきけるよう職員間にて共有してご利用者様の人格を尊重した対応を心掛けております。	耳の不自由な方には耳元で相手がかかるようにはっきりと話かけている。ホーム内にて接遇研修を行い職員の意識向上を図り、日々の関わりの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に自己決定を促すような声掛けを意識しております。ご利用者様とは希望を気軽に職員へ伝えて頂けるような関係作りをしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的に本人様のペースを尊重して生活していただくように配慮しております。外出等の希望があれば極力希望に添えるよう努力しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣する場合などはご本人様に洋服を選んで頂けるように促したり、お出掛けの際にはお洒落なお洋服を着て頂いたりしております。男性の方は毎朝髭剃りを促しや介助にて実施させていただき身だしなみに気を配っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・盛り付け・片付けなどを多くのご利用者様に関わって頂けるように促して職員とご利用者様が分担して行っております。	メニューは職員が考え、その日冷蔵庫にあるもので作っている。食材で足りないものがある場合、利用者と買い物に出かけることもある。利用者は出来る範囲でのお手伝いをし、食事は職員も利用者と同じテーブルと一緒に食べ、料理への反応や意見を聞きながら献立の見直しに役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に問題が見られた際は担当ナース相談しながら食事量や食事形態を検討しております。また、必要に応じて栄養補助食品なども適時使用しております。水分もカウンターに麦茶入りのポットを常備し何時でも水分が摂れるようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は職員が関わってお一人お一人丁寧に口腔ケアを行っております。日中は口腔ケアの促しを実施し必要な方は職員が介助にて実施させて頂いております。		

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握しタイミングの良い声掛けやトイレ誘導を実施しトイレで排泄できるよう努めております。	リハパンにパット使用の方がほとんどであるが家族の希望を尊重しながら対応している。職員は利用者の排泄パターンを把握しており、声掛け・誘導を行なっている。失敗したときにはトイレ誘導し、他の利用者に気づかれないように対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために食材や水分など工夫したり、運動で便秘の解消に取り組んだりしております。又、排便チェックを実施し便秘傾向の方はナースに相談する事で便秘の解消に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則は週2回の入浴ですが、希望があった場合や必要な際にはこれを超えて対応させていただきます。又、希望によって入浴の時間にも対応できるように努力しております。	週2回以上、利用者の意向に沿った入浴支援が行なわれ、夜8時頃や朝9時頃に入浴される利用者もいる。入浴を拒まれる利用者には無理強いすることなく自然な流れでの入浴へと配慮がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は本人様の体調に配慮しながら休憩をとっていただいております。清潔な寝具・照明・室温など環境面でも気持ち良く休んで頂けるように気を配っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	準看護師が薬を担当し服薬管理には細心の注意を払っております。症状に変化があれば担当ナースに連絡・相談し連携をとっております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で自然と役割が出来ており、ご利用者様の張り合いになっております。又、毎週木曜日は「お出掛けの日」としドライブなどで気分転換をはかっております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「お出掛けの日」以外でも個人的な買い物に職員と出掛けたりしております。時には職員とご利用者様が1対1でお出掛けされる事もあります。又、ご家族様と自宅や馴染みの場所などにお出掛けされる方もいらっしゃいます。	年間計画でお花見や紅葉狩りなどの計画が立てられている。共用スペースからは広い中庭に面したウッドデッキに出られ、気分転換や外気に触れることも出来る。利用者は中庭で花摘みや野菜の収穫なども楽しんでいる。	利用者にとっては日常的な外出が楽しみの一つでもあり、気分転換やストレス発散、五感の刺激の良い機会にもなる。外出を利用者の心身の活性化に繋げられることを期待したい。

グループホーム歩歩清風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はご利用者様がお金に触れる機会はありませんが、個人的な買い物に出かけた際などにご本人様に支払っていただく事もございます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの希望があった際には事務所の電話を使用させていただいて電話をしていただく支援もさせていただいております。又、絵手紙教室に参加されているご利用者様は作品の絵手紙をご家族様に送る事もございます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な空間が保てるよう職員一人一人が気を配っております。又、季節感を感じて頂けるようなお花や飾りなどにも配慮しております。	「福寿草」、「しだれ栗」の両ユニットが緩やかなL字カーブを描いた配置になっているため、広い共用空間は双方から自然に見渡せ、大きな掃出し窓からは広いデッキに出られ、景色の良い中庭へと続いている。職員からも見渡せるため、利用者は洗濯物を干したり、外気に触れたりと自由に出入りでき、心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じてスクリーンなどで小さな空間を作って対応させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご家族様に相談し馴染みの家具や身の回りの物を持ってきていただき、本人様が居心地よく過ごせるようにさせていただいております。	居室には利用者の作品や馴染みの品、タンス、椅子、家族写真等が持ち込まれ、思い思いに配置されており、一人ひとりがその人らしく過ごせるよう配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を横出しにし遠くからでも分かりやすくしたり、必要に応じて居室の入り口に目印を付けることでご本人様の部屋が分かるようにさせていただいております。		